

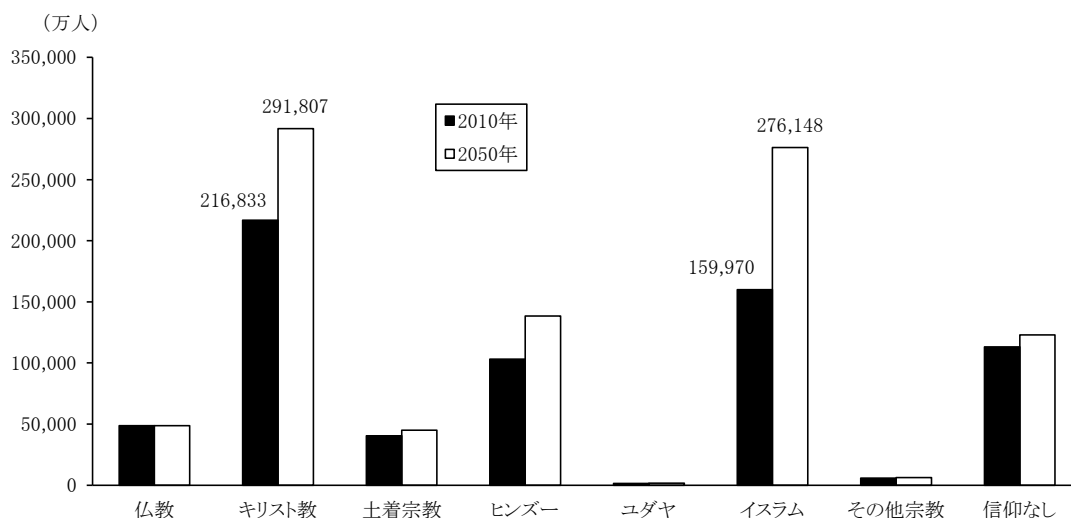
# 増加する在日モスリムとどう共生するか

主席研究員 小谷 みどり

## <増えるモスリム人口>

世界にはさまざまな宗教があるが、アメリカの調査機関 The Pew Research Center の Religion & Public Life project の報告書によれば、2010年にはキリスト教徒は約21億7,000万人と世界最多で、次いで多いモスリム（イスラムを信仰している人）の16億人を大きく引き離していた（図表1）。しかしモスリムが住む地域の出生率が高いことなどから、今後、世界のモスリム人口は急増し、2050年にはキリスト教徒が29億人（世界人口の31.4%）に対し、モスリムが27億6,000万人（29.7%）で、2070年には両者はほぼ同数となるという。この調査機関によれば、両者の勢力が拮抗するのは人類史上初めてだとしている。

図表1 世界の宗教人口の推移



資料：The Pew Research Center `global religious futures project`

現在、世界最大のイスラム国家はインドネシアだが、日本政府観光局の統計によれば、同国からの訪日者数は、2012年10万1460人から2017年35万2,330人に増加している。同じくイスラム国家のマレーシアからの訪日者数も、2012年13万183人から約44万人に増加した。もちろん、訪日したインドネシア人やマレーシア人のなかにはモスリムではない人もいるが、いずれにせよ、ここ数年、日本を訪れるモスリム観光客や留学生が増加していることはみてとれる。

日本に居住するモスリムは10万人から20万人程度いるとみられ、そのうち、モスリムとの国際結婚などで改宗した日本人は1万人ほどいるという。

### <モスリム文化を知る必要性>

イスラムは、日本人にとってはこれまであまりなじみがなかったかもしれないが、モスリム観光客の増加により、彼らが口にしている食事はハラール(イスラムの教えで許されているという意味)でなければならないことは日本でも知られてきた。具体的には、豚肉はハラーム(イスラムの教えで禁じられているという意味)だが、原材料にハラールではない成分(ポークエキス、ゼラチン、豚脂など)を含むものや、豚以外の肉についても、イスラムの教えに則った方法で加工処理されていない肉はハラームとみなされる。アルコールも禁忌なので、飲酒は当然しないが、原材料にみりんが入っているだけでも、口にしない人が多い。筆者には、モスリムと結婚し改宗した日本人の友人がいるが、先日、彼女におせんべいを渡したら、原材料に「みりん」と書かれてあったため、「これは食べられない」と返された。

筆者は大学院生の時に政府の派遣でマレーシアのモスリムの家庭でホームステイをして以降、頻繁にマレーシアを訪れているが、多民族国家であるマレーシアでは、住民同士の宗教への配慮は生活していく上で必須だ。豚肉を扱う中華料理店には必ず「ノンハラール」という看板がかかっており、マレー人は決して入店しない。筆者のホストファミリー宅は、隣人も向かいも中華系が住んでいるが、お互いに挨拶もし、近所づきあいもするが、隣人がご飯を食べに来ることはあっても、自分たちは隣の家で食事をするのはしない。豚肉料理を出されなくても、豚肉を料理したまな板や包丁を使っているからだ。外から見れば、マレーシアでは多民族が共生しているようにみえるが、お互いの文化を尊重しながらも、決してお互いが交わらない点が興味深い。

日本でも、これからますます、学校給食や病院食などでもモスリムへの配慮が求められるようになるので、ふだんの生活の中で宗教について意識しない私たちこそ、モスリム文化を知る必要性がある。

### <モスリム墓地の問題>

日本に住むモスリムが亡くなった時も問題だ。イスラムでは、最後の審判の日に復活すると考えられているため、遺体は土葬にしなければならない。しかも亡くなれば遺体が傷まないうちに、できるだけ早く土葬にすることになっている。日本の場合には、墓地埋葬等に関する法律で、死後24時間以内の土葬や火葬が禁じられているため、最短でも24時間経過しなければ土葬はできないが、モスリムが多く住むマレーシア、インドネシア、シンガポールなどでは、死亡診断書が出れば、地域のモスクを通じて墓地の区画が指定されるので、すぐにでも土葬することができる。2年前に亡くなった筆者のマレーシアのホストファミリーの場合は、夜の9時に亡くなり、翌朝10時には土

葬された。

しかもモスリムの土葬は、ひつぎで埋葬するのではなく、聖水で清めた遺体に布を巻き、顔をメッカの方角に向けて埋葬する。華やかな墓標はご法度なので、遺体に盛り土をして名前が分かるプレートを置くだけのシンプルな墓が一般的だ（写真1、2、3）。

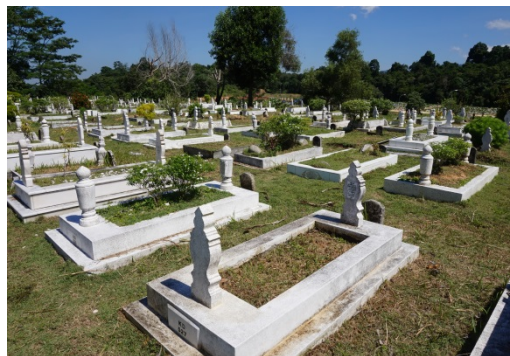
写真1 シンガポールのモスリム墓地



写真2 イギリス・ロンドン市のモスリム墓地



写真3 マレーシア・ペダリンジャヤ市のモスリム墓地



そこでこれからわが国では、こうしたモスリム用墓地をどこに確保するのが課題となる。現在、モスリム用墓地は、北海道余市町、山梨県甲州市、静岡市、茨城県つくばみらい市・小美玉市、和歌山県橋本市の6か所にある。

しかしモスリム用墓地を確保するのは容易ではない。日本イスラーム文化センターは8年前、栃木県足利市に土地を確保したが、地元住民の反発にあつて計画が頓挫した。土葬自体は市町村条例で禁止されていなければ可能であるが、土葬のイメージに加え、イスラムに対する偏見などもあいまって、地元住民からの同意を得ることが難しい。現在は、仏教寺院やキリスト教会の霊園の一角を間借りしている状況だが、今後、急増する在日モスリムの死後の安住の地をどう確保するかという問題は、わが国がどう多文化共生をしていけるかという課題でもある。

(ライフデザイン研究部 こたに みどり)